

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1 活動テーマ

<テーマ>

木目込み人形

<テーマの設定理由>

普段、手にすることや触れることの少ない木目込み人形とは何かを知り、木目込み独特の作り方を学び
手作りの木目込み人形を完成し達成感を味わう

2 活動スケジュール

実践月	実践日	テーマ	対象学年	内容
10月	18日	ヤスリかけ	年長	<ul style="list-style-type: none"> 人形ボディーにやすりをかけ、表面を滑らかにする 講師の先生といっしょに作る楽しさを味わう 欠けている部分や溝の浅い所の修正を講師の先生が直す
10月	25日	木目込み糊で 布をつける (底の部分)	年長	<ul style="list-style-type: none"> 保育で使うのりと木目込みで使う糊の違いを知る 糊の使い方を教わる 竹櫛の使い方を教わる
11月	15日	本体に木目込んでいく (右体の部分)	年長	<ul style="list-style-type: none"> 前回の続きから行う 溝に糊を竹櫛を使い入れていく 講師の先生に布をはめてもらい、木目込んでいく。
11月	22日	本体に木目込んでいく (左体の部分)	年長	<ul style="list-style-type: none"> 前回の続きから行う 溝に糊を竹櫛を使い入れていく 講師の先生に布をはめてもらい、木目込んでいく。
11月	29日	本体に木目込んでいく (顔の部分)	年長	<ul style="list-style-type: none"> 前回の続きから行う 溝に糊を竹櫛を使い入れていく 講師の先生に布をはめてもらい、木目込んでいく。
1月	17日	本体に木目込んでいく (前の胴体部分)	年長	<ul style="list-style-type: none"> 前回の続きから行う 溝に糊を竹櫛を使い入れていく 講師の先生に布をはめてもらい、木目込んでいく。
1月	24日	本体に木目込んでいく (尻尾・その他)	年長	<ul style="list-style-type: none"> 前回の続きから行う 溝に糊を竹櫛を使い入れていく 講師の先生に布をはめてもらい、木目込んでいく。
1月	31日	飾り付け・仕上げ	年長	<ul style="list-style-type: none"> 本体の布を全てはめ込みが完了し、木目込みの先生が一人ひとりの作品に飾り付け(目や部品パーツ)を付けていく。 仕上げの確認をして頂く。
2月	15日	完成製作展示	全園児	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の絵画や製作を展示する 他学年の園児や保護者に完成した木目込みを見てもらう 今までの工程など、親子で会話を楽しみ鑑賞する

3 探究活動の実践

<活動の内容>

活動のために準備した材料や道具、環境の設定

- ・ 活動のため、木目込み人形の本体、布、寒梅粉、竹串を用意した。
- ・ 活動内容は、今年の干支『巳』の木目込み人形を作るにあたり、干支の意味や干支とは何かを知ることができ、探究心が芽生え、世界にひとつだけの手作り人形を作る経験を味わう。
- ・ 『木目込み』という言葉は初めて耳にする園児たちは最初に人形の本体を手にとった時、「軽い！」「どうしたら、きれいな柄がつくの？」と感触や人形に対しての疑問などの声が聞こえた。講師の先生から作り方を教わり、一つひとつのパーツが完成するには細かい作業で時間がかかるが、園児たちは真剣尚且つ丁寧に行っていた。作業中の園児たちは、会話をすることよりも木目込みをすることに集中する園児が多かった。
- ・ 一つのパーツができると、先生に見てもらい、全体で説明することは少なく個々のペースで進んでいく木目込みなので、先生も一つひとつ、園児に教えていた。
- ・ 園児からの木目込みに対する問いかけに、「どうしてだと思う？」と問い、答えを園児自身が考え共感することや、園児の間に丁寧に説明し教えて、園児が納得できるように会話を進めていた。



4 振り返り

- 木目込み用の[のり]の元(白い粉)寒梅粉を園児たちに見せたとき、園児たちの知っている[のり]とは違うことに驚いていて、白い粉から粘々して固まってくる[のり]を見る経験ができて良かった。
- 木目込み人形をどうやって作っていくのか理解をしていないと毎回、難しいと思っていたが、木目込みの作り方を理解し始めてからはスムーズに作業に取り組めるようになってきたことに気づいた。
- 寒梅粉を作っている時、「昔話で[のり]を食べちゃうお話があるの知ってる？」と問うと「下きり雀だ！！」と答えてくれた子がいた。「ご飯で作った[のり]だとおいしかったらうね」と話が広がっていった。
- 段々と布が付き、へビの柄が分かるようになると、早く仕上げたい気持ちが強くなり、時間がかかる作業なのに、まだやりたいと伝えてくれる子どもたちが沢山いて、木目込みに対する思いが強いことに気づいた。
- 完成に近づき、目を先生に付けて頂いているときの園児たちがすごく嬉しそうな姿が伝わった。
- 作品展に完成した作品を保護者の方が熱心に見てくれていた。